

会議録（要旨）

- 1 開 会
- 2 あいさつ
- 3 議 事

（1）八潮市多文化共生推進プラン（案）について

- ◆八潮市多文化共生推進プラン（案）
- ◆策定委員会意見のまとめと対応について
- ◆「地域における多文化共生推進プラン」改訂のポイント

〈事務局から説明〉

● 訂正 ●

八潮市多文化共生推進プラン（案） P32（4）安全・安心の支援

2-4-1（誤）防犯・交通安全における意識啓発 ⇒（正）交通安全や防犯における意識啓発

● 第2回策定委員会のプラン（骨子案）からの変更点について ●

資料に基づき説明。主な変更点は以下のとおり。

- ・第1章「プランの策定にあたって」2. 多文化共生をめぐる動向（P2～P6）
国の「地域における多文化共生推進プラン」の改訂に基づき、P3に文言を追加。
- ・第1章「プランの策定にあたって」3. プランの位置づけと計画期間（P7）
プランの位置づけの図を追加。
- ・第4章「施策の展開」施策の柱1（P26～P28）
 - ①第2回策定委員会資料のプラン（骨子案）P26 **1-2-3**【ボランティア団体などの設立の支援】を、プラン（案）P26 **1-1-2**【日本語教室等への支援】に内容を統合。
 - ②P27 **2-1-7**【市民生活ガイドブックの多言語化】⇒【多言語による「くらしのガイド」の作成】に変更。
- ・第4章「施策の展開」施策の柱2（P29～P32）
 - ①P31 **2-2-9**【新たな学習機会の提供】を追加。
 - ②P32 **2-4-5**【災害時における外国人への支援】、**2-4-6**【公共交通における多言語化】を追加。
- ・第4章「施策の展開」施策の柱3（P33～P34）
第2回策定委員会資料のプラン（骨子案）P34 **1-2-4**【外国人市民などによる多文化共生講座の実施】を、プラン（案）P33 **1-2-3**【イベント等を通じた多文化共生講座の促進】に内容を統合。
- ・第5章「プランの推進」（P35）
（1）庁内会議 ⇒ 関係機関との連携・協力、（2）推進委員会 ⇒ 庁内体制 に変更。

● 策定委員会意見のまとめと対応について ●

資料に基づき説明。

<委員からの意見、質問>

● 「くらしのガイド」について ●

【質問】P27 1-2-7の「くらしのガイド」は何言語で作成するのか。また、1冊にまとめるのか。

→（事務局より）八潮市は、中国・ベトナム・韓国・フィリピンの方が多いので、実態に合わせて複数の言語で作成したいと考えている。また、他市では冊子のほか、ホームページでも閲覧できるようになっている。それぞれの言語でダウンロードできる仕組みがあるので、電子データも活用したいと考えている。

● キーパーソンについて ●

【質問】P26 1-2-3【多文化共生を推進するキーパーソンの養成】について、市で設置するキーパーソンの活動はどのような事が想定されるか。

→（事務局より）市の行政情報を外国人市民に提供したり、市民の意見をうかがう役割を担う、地域と行政の間に入るキーパーソンを養成する。外国人市民であっても、日本語の理解が深い方もいるので、コミュニティの中でキーになっている方と直接やり取りができればよいと考えている。また、母語保持のサポートをしていただける方にもキーパーソンをお願いしたいと考えている。

【意見】埼玉県多文化共生キーパーソンに登録しているが、県からはほとんど情報提供はなかった。年1回県の意見交換会を実施するが、活動の指示等はなく、自分の活動記録を提出する程度である。「多文化共生」自体がわかりづらく、活動の中身が想像できない名称なので皆が興味を示さない。また、「キーパーソン」という響きも重荷であるため、市の取組については、名称や活動内容を八潮市独自のものにするといいのではないかと。

→（事務局より）実際に活動を始める際は、独自の名称を設定したいと考えている。

→（委員より）市で設置するキーパーソンについて、情報の提供を主な活動にすると、情報提供の場が頻繁にあるわけではないので、それこそ形骸化したものになってしまうと思う。

【意見】個人で活動するよりも、役所で曜日別に言語を分けて相談できる窓口を設置したらどうか。個人で活動する場合、支援者が個人情報の提供を好まないケースもあるため、市を介した方が安心して活動できるのではないかと。

→（事務局より）近隣で相談窓口を開設している市もあるので、参考にしながら検討していきたい。

● 数値目標の設定について ●

【意見】 イベントへの参加者数に関しては、形骸化する恐れがあると考ええる。コロナの影響が長引き開催されない可能性もあるので、考慮して検討して頂きたい。

【質問】 数値目標について、そもそもこの数値が適正なのかがわからない。この数値に対する根拠の説明があるとよいのではないか。

→ (事務局より) 「多言語サポーターの登録者数」については、現在の活用事例は少ないが、今後プランを策定し実施する上で、庁内の文書の翻訳や、相談の通訳の機会も出てくると思われる。目標値が低いと思われるかもしれないが、5年後に実現可能な数値として設定をしている。

「日本語ボランティア養成講座受講者数」については、現在までに延べ314名の方にご協力いただいている。前回の会議で、講座の受講者数だけでなく、その後の活動についても考えてほしいと意見を頂いたが、まずは受講者を増やす活動をしていきたいと考えている。

「多文化共生関連イベントへの参加者数」については、昨年度初めて実行委員会形式で開催し、来場者数も大幅に増加したこともあり、イベントとして浸透させたいと考えている。

【意見】 「日本語ボランティア養成講座受講者数」について、延べ人数ではあまり意味がなく、実数で数えたほうがいいのではないか。また、目標値には受講者数だけでなく、日本語ボランティアの活動人数も入れていただきたい。

【質問】 数値目標を達成するために、どのような取組をしていくかということについては話し合いの場は設けられるのか。

→ (事務局より) 数値目標の内容については、この策定委員会でのご意見を十分踏まえたいと考えているが、具体的な取り組みの方法については、担当課の中で検討していく。

● 日本語ボランティアについて ●

【意見】 市内にいくつ日本語指導の拠点を持てばよいかなどの具体的な目標を立て、その目標に向けて何人ボランティアが必要なのかを考えることが大事である。日本語ボランティア養成講座修了後に、市が拠点を作るためのサポートや教材の支援をしなければ、活動したくてもできないのではないか。講座を受けた人が確実にボランティアとして活動できるように、教科書や実施場所などについてもサポートする体制を市で作って頂きたい。

【意見】 日本語ボランティア養成講座を受講したことで、日本語教室やボランティア団体の立ち上げや参加には至っていないが、私生活において近所の外国人とのコミュニケーションで役立っている可能性はある。そうした活用をされている方の実態を把握してもいいのではないか。

【意見】日本語ボランティア養成講座は、必ずボランティアとして活動しなければならないというものではなく、市民全体が講座を楽しめるよう、広い意味で人生を豊かにするような講座になればいいのではないかと。多文化共生社会を底支えするような取り組みになるといい。

〈結 果〉

数値目標について、説明文を追加することとした。

4 その他

(1) 次回の委員会について

- ・次回策定委員会については、令和3年2月を予定。
- ・令和2年11月20日の経営戦略会議を経てプラン(案)を確定させ、令和2年12月15日(火)～令和3年1月15日(金)にパブリックコメントを実施する。

5 閉 会

以 上